

川内原発 適合審査 規制委員長が虚偽答弁

笠井氏への 回答で判明

九州電力川内原発^{せきん}1、2号機の再稼働の前提となる規制基準への適合性審査をめぐって、原子力規制委員会の田中俊一委員長が、審査では実施していない解析を実施したと、事実と異なる国会答弁をしていたことが15日、明らかにされました。日本共産党の笠井亮衆院議員への原子力規制庁の

回答で判明しました。

問題の答弁は、衆院原子

力問題調査特別委員会で7

日、同原発で重大事故が起

こった場合の原子炉の破損

時間の解析結果について、

九電の評価を規制委が妥当

と認めた問題を笠井氏が追

及したときのもの。笠井氏

が、規制委として独自解析

(クロスチェック解析)を

行って「審査したのか、し

ていないのか」とただす

と、田中氏は「クロスチェ

ックはきちっとやらせてい

ただいております」「クロ

スチェックをした評価の結

果については…近々レポー

トとして報告させていただ

きます」と答弁しました。

同日夜、規制委は「格納容

器破損防止対策の有効性評

価に係る重要事象の分析」

など二つの「技術報告」を

公表。本紙の取材に規制庁

は、これらの「技術報告」

が田中氏の述べた「レポー

ト」に該当すると認めてい

ます。一方、これらには「本

技術報告の内容を規制基

準、評価ガイド等として審

査や検査に活用する場合に

は、改めて規制委としての

判断が行われます」と、ただ

し書きを明記しています。

笠井氏が国会での質問

後、この判断を行った時期

について説明を求めると、

規制庁は「現時点において

規制委としてそうした判断

を行う予定はありません」

と15日に回答。技術報告が

審査に活用されていないかっ

たことがはっきりしまし

た。